

「研究テーマ」

## 新聞を使って書く力を高める

### ～国語表現の中に新聞を～

兵庫県立家島高等学校

#### 1 はじめに

兵庫県立家島高等学校は、瀬戸内海の島嶼地域にある、1学年1学級の小規模校である。

本校では昨年度、3学年で履修する国語表現Ⅱの授業で新聞を用いた授業を実践してきた。

年度当初、国語表現Ⅱの授業で文章指導を行った時、しっかりとした文章を書ける生徒はほとんどいなかった。

理由としては、生徒の表現力、文章構成力だけではなく、根本的な語彙力が劣るため、自分達の考えを文章に書き表せないためであった。

このことから、生徒の語彙力と表現力を高めつつ、数多くのテーマに触れる機会を作るために、昨年度は下記のような新聞を用いた実践内容で授業を行った。

##### (1) 新聞コラム書写

新聞の書写を通じ、語彙力を高め、表現力の基礎固めを行う。また、同時に時事に対しての興味・関心を養う。

##### (2) 解説記事の活用

各新聞社のニュース用語解説記事を用いて内容要約を行い、文章構成力を高める。

##### (3) 新聞記事を用いた意見文

同じ題材について、複数の新聞社の社説を読み比べ、それに基づいた意見文を書くことで、与えられたテーマに沿った文章を書く力を高める。

昨年度は、国語表現Ⅱで新聞を用いた授業を実施した結果、生徒は文章を書くことに積極的になっていった。

今年度はN I Eの実践校の指定をいただき、新聞を取り入れた授業をさらに進めていくことにした。

#### 2 実践中に生じた問題と解決

昨年の実践内容をもとに、今年度は2学年の国語表現Ⅰと3学年の国語表現Ⅱを中心に新聞を活用した授業を行った。

しかし、3学年の国語表現Ⅱの授業では昨年同様の実践を行うことは困難であった。新聞コラムの書写を通じて、生徒に時

事ニュースへの興味を高め、語彙を増やすはずが、コラムの書写を単純作業と捉え、積極的に取り組めない生徒が半数近く現れた。

このままでは、新聞を用いた授業に対して不快感を持たせてしまうと考え、時間を区切ってどれだけの文量を書き写せるかという形式に変更した。次第に書写する字数が増えていくことを実感させ、達成感を味あわせることで、生徒が意欲的に取り組めるようにした。

また、こちらから時事問題についての記事を提供するだけでなく、生徒が興味・関心のある記事を選び発表をする、記事紹介を行った。



紹介する記事を探す生徒

毎週、担当生徒を決め、発表前日までに自分の興味のある記事を探し、簡単な記事選出の理由をつけさせた。これをプリントにして、授業時に配布し、内容の要約を行う授業形式を取っ

た。

また、以前から閲覧場所としていた図書室だけでなく、職員室前に新聞を置くことにより、休み時間や放課後に生徒が新聞を閲覧しやすい環境を作った。

記事紹介を行っていくうちに、多くの生徒がスマートフォン関連の記事に興味を抱くことが分かった。

そして、自分の興味・関心のある記事を紹介することで、当初は記事の説明だけだったが、次第に記事の内容の要約や選出の理由を書くようになっていった。



新聞記事を用いた授業（国語表現Ⅰ）

### 3 興味を持つ記事で意見文を書く

記事紹介を通じて生徒がスマートフォンに関する記事に関心を持つことがわかり、それに関する記事や、新聞コラムを取り上げるようにした。

それまでと違い、生徒が興味のある事柄と、社会の動きや、経済活動が関連していることを

知ること、積極的に授業に参加し、ニュースや新聞に目を通す生徒が増加していった。

次の表は、3学年の国語表現Ⅱで実施したアンケートの結果である。授業を選択した半数以上の生徒が、最初は新聞を読む習慣を持たなかった。しかし、一年間、新聞を用いた授業をした結果、全ての生徒に新聞を読む習慣が身に着いていた。

年度当初の新聞を読む頻度	
①毎日	2
②3～4日	1
③1～2日	2
④読まない	8
現在の新聞を読む頻度	
①毎日	3
②3～4日	1
③1～2日	9
④読まない	0

国語表現Ⅱ選択者アンケート

また、新聞記事に対して意見文を書くうちに、自分の進路に沿った新聞記事を探して意見文を書くようになっていった。

こうして書き上げた意見文を400字程度にまとめなおし、実際に新聞投書を行うようにした。

年度当初には、自分の意見をうまく表現できなかった生徒であるが、一年間の活動のなかで

自分の意見をまとめ、表現することができるようになり、投書が掲載される生徒も現れるようになった。



2月8日付神戸新聞投書欄

#### 4 記者派遣事業の活用

本校には特色のある授業として、2学年で選択する「地域社会」がある。島内の風土文化について学び、島の観光や防災について考える授業である。

選択している生徒が修学旅行と絡め、離島の観光を考える一助として、共同通信社の、小田島記者を講師として派遣して頂き、観光など、地域の紹介記事を書く際のポイントについて学んだ。



小田島記者から指導をうける生徒

修学旅行後、生徒は自分達が体験したことをレポートとしてまとめて発表し、記者派遣事業をいかすことができた。

## 5 一年間を総括して

### (1) 生徒の意識の変化

3学年で実施した国語表現Ⅱでは、生徒から「最初は、政治や経済なんて自分とはまったく関係ないと思っていたが、政治や経済が自分達の身の回りのことに密接に関わりがあることを知り、よく新聞を読むようになった。」といった意見や「複数の新聞を読み比べることで、同じ出来事に対して様々な見方ができ、メディアリテラシー能力を高めることができた。」といった感想が挙げられた。

また、新聞のコラムや社説を用いた授業を受けることで「ニュースを率先してみるようになった。」や「新聞記事やニュースが家族間で話題になるようになった」など率先して情報を収集する態度を養えた。

また、入賞こそしなかったものの、各種作文コンテストに生徒が作品を投稿するなど、文章を意欲的に書く姿勢が見られるようになった。

新聞を授業に取り入れることで、生徒が自主的に課題を見つ

け、それに対して自分なりの解答を述べようとする、文章を書く上で望ましい変化が見られた。

### (2) おわりに

生徒の興味・関心を意識した記事を授業中に用いることで、前年以上に生徒が授業に取り組むようになった。

また、新聞投書欄への投稿など、字数制限に合うように文章を推敲することは生徒一人一人の作文能力を著しく成長させた。

そして、昨年からの大きな変化は、新聞閲覧をする生徒の増加である。休み時間ごとに職員室前で新聞を読む生徒や、昼休みや放課後に図書室で新聞を読む生徒が増えている。この結果、小論文の指導を行う上でも語彙力や時事に対する基礎知識の向上が見られるようになった。

2年目は国語科だけではなく他教科とも連携して新聞を用いた指導を行っていきたい。



図書室で新聞を閲覧する生徒